

論文・Paper

Ni²⁺ イオン含有 PbO-GeO₂-R₂O (R=K or Na) 系ガラスの光学的性質

—可視域、赤外域の光吸収及び屈折率—

小山田了三・古賀秀人*・下道毅*

長崎大学 教育学部 現在: 東京電機大学 工学部)
* 長崎大学 工学部 材料工学科	

PbO-GeO₂-R₂O (R=K or Na), PbO-GeO₂-K₂O-Na₂O ガラス中の Ni²⁺ イオルの吸収スペクトルを測定し、これを用いて配位子場強度、Racah パラメーター及び Ni²⁺ イオンの配位状態を決定した。アルカリ含量によるこれらのパラメーターの変化をガラス構造と関連付けて検討した。PbO-GeO₂-R₂O-NiO(R=K or Na)系ガラスでは、アルカリ含量の増加に伴い配位子場強度を表すピークの位置は高波数側へ、Racah パラメーターは低波数側へシフトした。PbO-GeO₂-K₂O-Na₂O-NiO 系ガラスでは、配位子場強度及び Racah パラメーターは算出できなかった。PbO-GeO₂ マトリックスガラス中では、Ni²⁺ は 6 配位が支配的であるが、アルカリ含量増加に伴い 4 配位と 6 配位の Ni²⁺ が生成する。これらの測定結果から、この系のガラス中には GeO₆⁸⁻ イオンが生成していることが示唆された。

PbO-GeO₂-R₂O-NiO (R=K or Na), PbO-GeO₂-K₂O-Na₂O-NiO 系ガラスの IR 吸収スペクトルを測定し、これを用いて Ge の配位状態を決定した。結果として、この系のガラス中では Ge は 6 配位が支配的であり、アルカリの添加によって Ge の配位数はあまり大きい変化を受けないことが示された。

PbO-GeO₂-R₂O-NiO (R=K or Na), PbO-GeO₂-K₂O-Na₂O-NiO 系ガラスの屈折率を測定した。PbO-GeO₂-R₂O-NiO 系ガラスではアルカリ含量増加に伴い屈折率は低下し、加成性からのわずかなずれが見られた。PbO-GeO₂-K₂O-Na₂O-NiO 系ガラスでは、[K₂O] / [K₂O + Na₂O] の比の増加に伴い屈折率は直線的に低下し、混合アルカリ効果ははっきりとは現われなかった。

(1984 年 1 月 27 日受付)

Optical Properties of PbO-GeO₂-R₂O (R=K or Na) Glasses Containing Ni²⁺ Ions

—Optical Absorption in the Visible and Infra-Red Region, and Refractive Index—

Ryozo OYAMADA, Hideto KOGA* and Tsuyoshi SHIMOMICHI*

Faculty of Education, Nagasaki University 1-14, Bunkyo-machi, Nagasaki-shi 852)
---	---

| Now with Faculty of Engineering, Tokyo Denki University | |
| * Department of Materials Science and Engineering, Faculty of Engineering, Nagasaki University | |

Absorption spectra of Ni²⁺ ions in PbO-GeO₂-R₂O (R=K or Na) and PbO-GeO₂-K₂O-Na₂O glasses were measured. The ligand field strength and the Racah parameter were calculated from the absorption wave numbers. The state of coordination of Ni²⁺ ions was elucidated from the peak positions. With increasing alkali content in PbO-GeO₂-R₂O-NiO (R=K or Na) glasses, the peak wave number corresponding to the ligand field strength increased and the Racah parameter decreased. In PbO-GeO₂-K₂O-Na₂O-NiO glasses, the ligand field strength and the Racah parameter were not calculated. Ni²⁺ ions were considered to be predominantly in the 6

coordinated state in $\text{PbO}-\text{GeO}_2$ glasses. The increase in alkali content in $\text{PbO}-\text{GeO}_2-\text{R}_2\text{O}$ ($\text{R}=\text{K}$ or Na) glass resulted in the tetragonal and tetrahedral structures. The result obtained suggests that GeO_{6-}^{8-} ions are formed by adding alkali ions to the glass network.

[Received January 27, 1984]

Key-words : $\text{PbO}-\text{GeO}_2-\text{R}_2\text{O}-\text{NiO}$ glasses, Mixed alkali effect, Optical property (visible, IR, refractive index), Glass structure, Ligand field of Ni^{2+} ion

1. 緒 言

ガラス中に添加された遷移金属イオンは、酸素イオンによって配位された錯体を形成していると考えられる。そのため、酸素イオンの配位状態の変化によって遷移金属イオンのバンド状態に変化が生じることが予想され、これを示唆する光吸収スペクトルを測定することによりこれら配位子の状態を、また広くガラスの構造に関する知見を得ることができると考えられる。

ガラス構造に関する研究は多く行われているが、 GeO_2 系ガラスについては密度^{1,2)}、屈折率^{1,2)}、赤外吸収³⁾、粘度⁴⁾、熱膨張⁵⁾についての研究が報告されており、Evstropiev ら⁶⁾は、 GeO_2 系ガラスはアルカリ金属などの添加により 4 配位の Ge の一部が 6 配位になるという説を示した。

しかしながら、 GeO_2 系ガラス中の遷移金属イオンに関する研究は少なく、わずかに Cu^{2+} についての光吸収の研究が報告⁷⁾されているが、特に本研究で取り上げる GeO_2 系ガラスの光物性についての報告は少ない。 GeO_2 ガラス中の Cu^{2+} イオンの近赤外光吸収スペクトルに及ぼすアルカリ金属の影響については作花らの報告⁷⁾があり、アルカリ金属イオンの半径増大に伴いピーク波長が長波長側へシフトしたことが報告されている。また Ahmed らは同じ Cu^{2+} の光吸収の研究を混合アルカリホウ酸ガラス ($\text{LiO}_2-\text{Na}_2\text{O}-\text{B}_2\text{O}_3$, $\text{Na}_2\text{O}-\text{K}_2\text{O}-\text{B}_2\text{O}_3$) を行い、混合アルカリ効果はあまり現れないと報告した⁸⁾。更に混合アルカリホウ酸ガラス ($\text{Li}_2\text{O}-\text{Na}_2\text{O}-\text{B}_2\text{O}_3$, $\text{Na}_2\text{O}-\text{K}_2\text{O}-\text{B}_2\text{O}_3$) 中の Ni^{2+} の光吸収(可視、近赤外領域)の研究を行い、配位子場強度、Racah パラメーターなどには加成性による直線からのずれがほとんど見られず、単一アルカリの場合のみわずかなずれが見られたと報告⁹⁾している。また、作花らは $\text{Na}_2\text{O}-\text{Al}_2\text{O}_3-\text{B}_2\text{O}_3$, $\text{CaO}-\text{Al}_2\text{O}_3-\text{B}_2\text{O}_3$, $\text{Na}_2\text{O}-\text{SiO}_2$ 系ガラス中の Ni^{2+} の研究を行い、 $\text{Na}_2\text{O}-\text{Al}_2\text{O}_3-\text{B}_2\text{O}_3$ 系では Na_2O の増加とともに ν_1 , ν_2 , ν_3 が減少し、40~50 mol%以上では ν_1 が増加することを、 $\text{CaO}-\text{Al}_2\text{O}_3-\text{B}_2\text{O}_3$, $\text{Na}_2\text{O}-\text{SiO}_2$ 系では ν_1 の変化はあまり現れないことを報告¹⁰⁾している。

GeO_2 を含むガラス系については前述のような若干の研究がなされているが、 $\text{PbO}-\text{GeO}_2$ 系ガラス中に含有される Ni^{2+} のスペクトルに関する報告はまだ見られない。また本系で添加剤として用いた Ni^{2+} は現在まで報告された Cu^{2+} と比較してヤーン・テラー効果の影響を

受けないため、バンド状態がより正確に検討できる特長を持つものである。

そこで、本研究では $\text{PbO}-\text{GeO}_2$ 系ガラスに系統的にアルカリ金属酸化物を加えたガラスについて Ni^{2+} の光吸収スペクトルの情報を得ようとした。そしてこれから配位子場強度、及び Racah パラメーターを算出し、また赤外吸収、屈折率等を測定して、これらの結果からガラスの構造変化とそれに及ぼすアルカリ酸化物の与える影響を解明することとした。

2. 実験方法

ガラス組成は $\text{PbO}\cdot 2\text{GeO}_2$ 、及び $\text{PbO}\cdot 1.6\text{GeO}_2$ をマトリックスとして単一アルカリの場合は $(100-x)(\text{PbO}-\text{GeO}_2)+x\text{R}_2\text{O}$ ($\text{R}=\text{K}$ or Na) + 0.2 wt% NiO とし、混合アルカリの場合は $80(\text{PbO}-\text{GeO}_2)+x\text{K}_2\text{O}+(20-x)\text{Na}_2\text{O}+0.2$ wt% NiO とした。これらをひょう量後、白金るつぼに入れ、1100°Cで約3時間保持した後、均一性を良くするために一度急冷ガラスにし、これを碎いて再度1時間溶融した後、その組成に適した温度に加熱した鋳型に鋳込み、これの両面を研磨して試料厚約1~2 mmとした。

近赤外、可視光吸収スペクトルは日本分光製 UVIDE-C-420、及び 590 を用い、2500~320 nm (4000~31300 cm⁻¹) の範囲で行い、赤外吸収スペクトルは日立製作所製 285 型赤外分光光度計を用いて、KBr 法で 25000~2500 nm (400~4000 cm⁻¹) の範囲で行った。屈折率は Na の D 線 (589.3 nm) を光源として島津製作所製の分光計 V-6 型を用い、最小偏角法により算出した。

3. 結 果

3.1 可視、近赤外吸収スペクトル

$\text{PbO}-\text{GeO}_2-\text{R}_2\text{O}$ 系ガラス ($\text{R}=\text{K}$ or Na) 中の Ni^{2+} の光吸収スペクトル (4000~31300 cm⁻¹) を測定し、その結果を図1に示した。

$\text{PbO}-\text{GeO}_2$ 系マトリックスガラスの Ni^{2+} のスペクトルの独立したピークは低波数側より、約 8000 cm⁻¹, 12000 cm⁻¹, 23000 cm⁻¹付近にそれぞれ現れた。また $\text{PbO}-\text{GeO}_2-\text{R}_2\text{O}$ 系ガラス ($\text{R}=\text{K}$ or Na) の Ni^{2+} のスペクトルのピークは低波数側より 5000~6000 cm⁻¹, 8000~10000 cm⁻¹, 10000~12000 cm⁻¹, 21000~23000

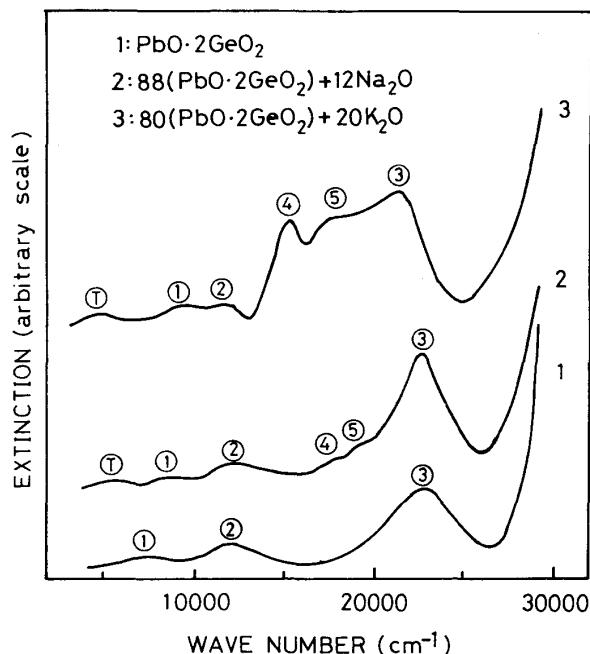


Fig. 1. Absorption spectra of Ni^{2+} ions in the $(100-x)(\text{PbO}\cdot 2\text{GeO}_2) + x \text{R}_2\text{O} + 0.2$ wt% NiO glasses.

①: ν_1 , ②: ν_2 , ③: ν_3 , ④: ν_4 , ⑤: ν_5 , ⑥: ν_T

cm^{-1} 付近に現れ、 R_2O 8~12 mol% (K_2O 8 mol%, Na_2O 12 mol%) 以上では新しいピークが $13000\sim 16000 \text{ cm}^{-1}$, 18000 cm^{-1} 付近にも現れた。 K_2O が 20 mol% になると $13000\sim 16000 \text{ cm}^{-1}$, 18000 cm^{-1} 付近の吸収が著しく大きくなり、吸収スペクトルの形は大きく変わることが認められた。

これらのスペクトルは $\text{Na}_2\text{O}\text{-Al}_2\text{O}_3\text{-B}_2\text{O}_3$, $\text{CaO}\text{-Al}_2\text{O}_3\text{-B}_2\text{O}_3$ 系ガラス中の Ni^{2+} について行った作花らの報告¹⁰⁾を参考にすれば、 ν_1 ($8000\sim 10000 \text{ cm}^{-1}$), ν_2 ($10000\sim 12000 \text{ cm}^{-1}$), ν_3 ($21000\sim 23000 \text{ cm}^{-1}$), ν_4 ($13000\sim 16000 \text{ cm}^{-1}$), ν_5 (18000 cm^{-1} 付近) に当たる。これらのバンドのうち、 ν_1 , ν_2 , ν_3 は 6 配位 Ni^{2+} に関するものとされ、また ν_4 は 4 配位 Ni^{2+} のものとされており、それぞれ次のように帰属されている。

ν_1 : $^3\text{A}_{2g}(F)\rightarrow ^3\text{T}_{2g}(F)$

ν_2 : $^3\text{A}_{2g}(F)\rightarrow ^3\text{T}_{1g}(F)$

ν_3 : $^3\text{A}_{2g}(F)\rightarrow ^3\text{T}_{1g}(P)$

ν_4 : $^3\text{T}_1(F)\rightarrow ^3\text{T}_1(P)$

ν_5 : Spin-forbidden transition to the G term

また本系で認められた $5000\sim 6000 \text{ cm}^{-1}$ 付近の吸収は混合アルカリホウ酸ガラスについて Ahmed が報告⁹⁾した 4800 cm^{-1} 付近にわずかに認められた 4 配位 Ni^{2+} の $^3\text{T}_1(F)\rightarrow ^3\text{T}_2(F)$ の遷移(図 2)に当たるものと考えられ、これを以下では ν_T と呼んで取り扱うこととする。

図 3, 図 4 に单一アルカリガラス中の Ni^{2+} の吸収バンドのアルカリ含量変化に伴う波数変化を、また図 5, 図 6 に混合アルカリガラス中の Ni^{2+} の吸収バンドのア

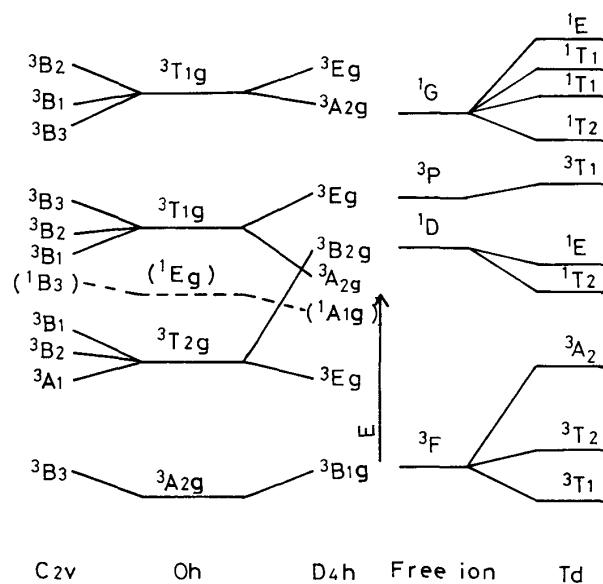


Fig. 2. Energy level diagrams for Ni^{2+} in octahedral and tetrahedral fields.

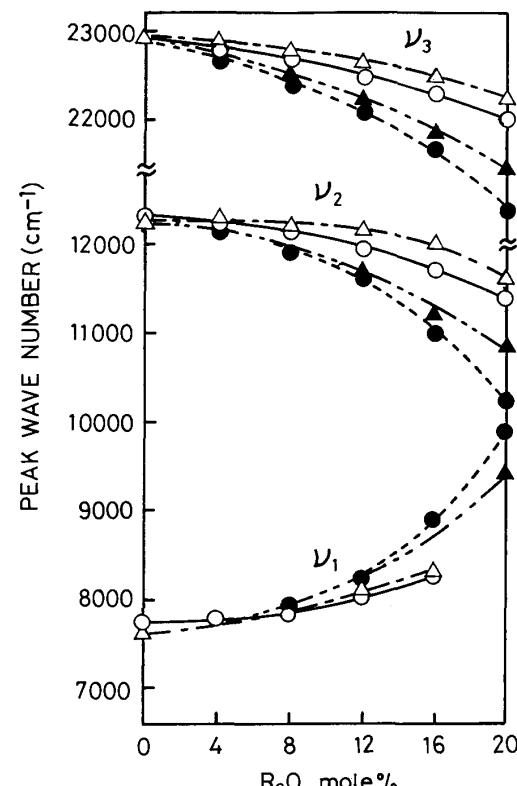


Fig. 3. Variation of the peak wave number of Ni^{2+} ions in the $\text{PbO}\text{-GeO}_2\text{-R}_2\text{O}$ glasses. R is K or Na.
○: $\text{PbO}\cdot 1.6\text{GeO}_2+\text{Na}_2\text{O}$, ●: $\text{PbO}\cdot 1.6\text{GeO}_2+\text{K}_2\text{O}$, △: $\text{PbO}\cdot 2\text{GeO}_2+\text{Na}_2\text{O}$, ▲: $\text{PbO}\cdot 2\text{GeO}_2+\text{K}_2\text{O}$

ルカリ含量変化に伴う波数変化を示した。

单一アルカリガラスでは、アルカリ含量増加に伴い ν_1 バンドは高波数側へ (K_2O 20 mol% で約 2000 cm^{-1} , Na_2O 16 mol% で約 5000 cm^{-1}) シフトすることが認められ、一方 ν_2 , ν_3 バンドは低波数側へシフトし、その大きさは Na_2O 20 mol% で両者とも約 800 cm^{-1} , K_2O 20 mol% で両者とも約 2000 cm^{-1} であり、シフトの傾

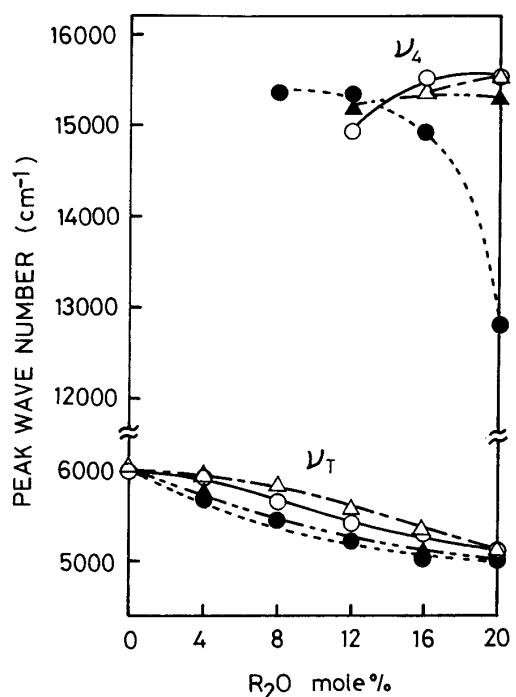


Fig. 4. Variation of the peak wave number of Ni^{2+} ions in the $\text{PbO-GeO}_2\text{-R}_2\text{O}$ glasses. R is K or Na.
 ○ : $\text{PbO}\cdot1.6\text{G}_2\text{O}+\text{Na}_2\text{O}$, ● : $\text{PbO}\cdot1.6\text{GeO}_2+\text{K}_2\text{O}$,
 △ : $\text{PbO}\cdot2\text{GeO}_2+\text{Na}_2\text{O}$, ▲ : $\text{PbO}\cdot2\text{GeO}_2+\text{K}_2\text{O}$

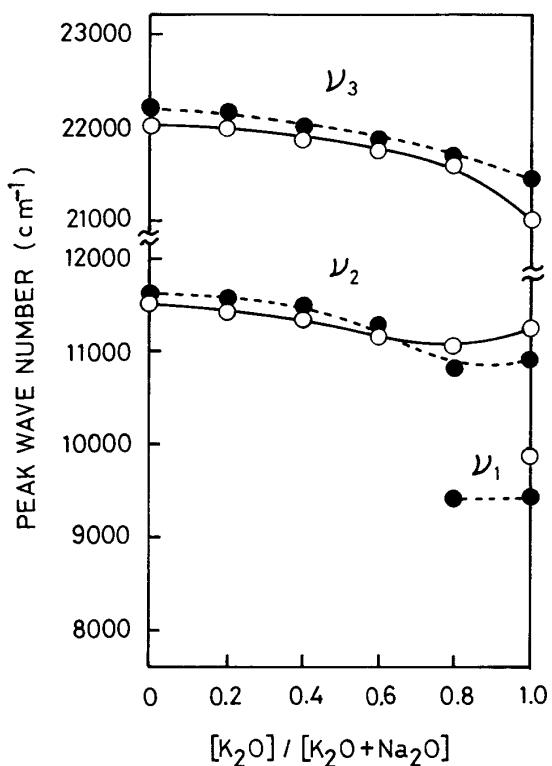


Fig. 5. Variation of the peak wave number of Ni^{2+} ions in the $\text{PbO-GeO}_2\text{-K}_2\text{O-Na}_2\text{O}$ glasses.
 ● : $\text{PbO}\cdot2\text{GeO}_2$, ○ : $\text{PbO}\cdot1.6\text{GeO}_2$

向はKの場合がNaの場合よりも大きいことが分る。また ν_4 バンドはアルカリの含量8~12 mol% (K_2O 8 mol%, Na_2O 12 mol%) 以上で現れ、 K_2O 20 mol% で吸収強度が ν_3 バンドの3/4程度となることが認められ

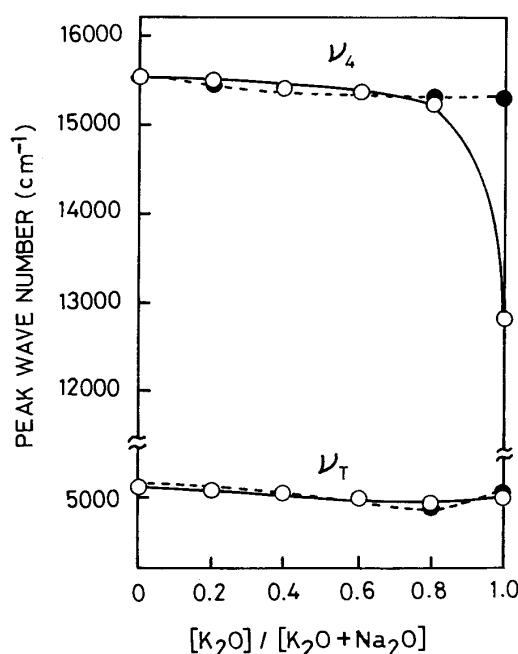


Fig. 6. Variation of the peak wave number of Ni^{2+} ions in the $\text{PbO-GeO}_2\text{-K}_2\text{O-Na}_2\text{O}$ glasses.
 ● : $\text{PbO}\cdot2\text{GeO}_2$, ○ : $\text{PbO}\cdot1.6\text{GeO}_2$

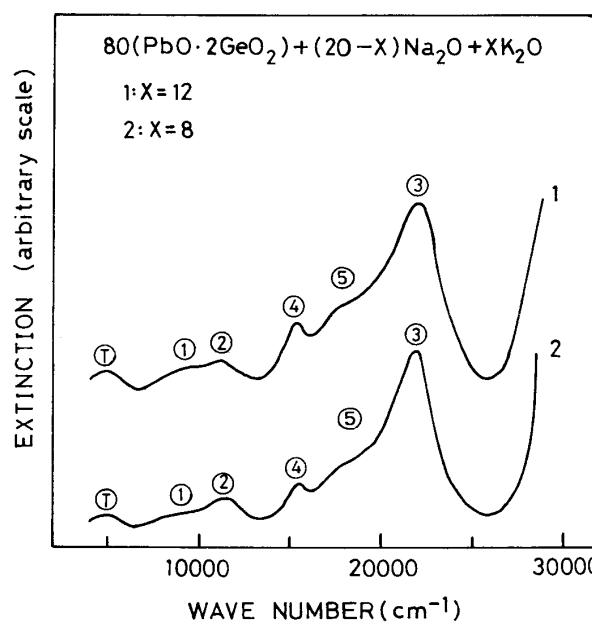


Fig. 7. Absorption spectra of Ni^{2+} ions in the $80(\text{PbO}\cdot2\text{GeO}_2)+(20-x)\text{Na}_2\text{O}+x\text{K}_2\text{O}+0.2\text{ wt\% NiO}$ glasses.

① : ν_1 , ② : ν_2 , ③ : ν_3 , ④ : ν_4 , ⑤ : ν_5 , ⑦ : ν_7

た(図1)。

次に $\text{PbO-GeO}_2\text{-K}_2\text{O-Na}_2\text{O}$ 系ガラス中の Ni^{2+} の光吸収スペクトルを図7に示した。混合アルカリ系ガラスでは ν_4 バンドは ν_2 バンドのショルダー部と重なっているため、部分的な測定しか行えなかった。図5、図6に示すように ν_2 、 ν_7 バンドのピーク波数は $[\text{K}_2\text{O}]/[\text{K}_2\text{O}+\text{Na}_2\text{O}] = 0.8$ の点で極小を示し、 ν_3 バンドは $[\text{K}_2\text{O}]/[\text{K}_2\text{O}+\text{Na}_2\text{O}]$ の比の増加に伴い低波数側へシフト(500~1000 cm^{-1})した。

3.2 赤外吸収スペクトル

$\text{PbO}-\text{GeO}_2-\text{R}_2\text{O}$ ($\text{R}=\text{K}$ or Na), $\text{PbO}-\text{GeO}_2-\text{K}_2\text{O}-\text{Na}_2\text{O}$ 各系の赤外吸収スペクトルを図8に示した。

GeO_2 結晶の $\text{Ge}-\text{O}-\text{Ge}$ の伸縮振動の吸収は GeO_4 群からなる α -瑛型では 878 cm^{-1} に, GeO_6 群からなるルチル型では 688 cm^{-1} に現れると報告³⁾されている。本系のガラスでは吸収ピークは $760 \sim 740 \text{ cm}^{-1}$ 付近にあるので、これは GeO_6 群に対応するものと考えられ、Ge の大部分が6配位化しているものと思われる。

単一アルカリガラスでは、アルカリ含量增加に伴いピーク波数はわずかに低波数側へシフト (K , Na ともに約 20 cm^{-1}) し、アルカリの種類によるシフトの違いははっきりとは現れなかった(図9)。

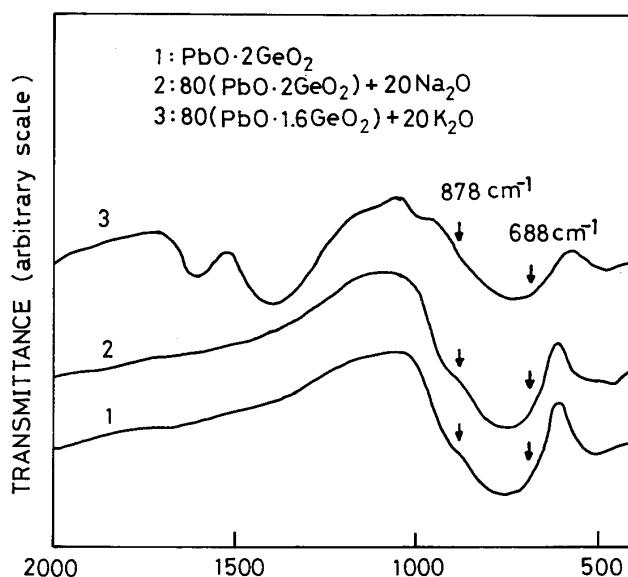


Fig. 8. IR spectra of $\text{PbO}-\text{GeO}_2-\text{R}_2\text{O}-\text{NiO}$ glasses.

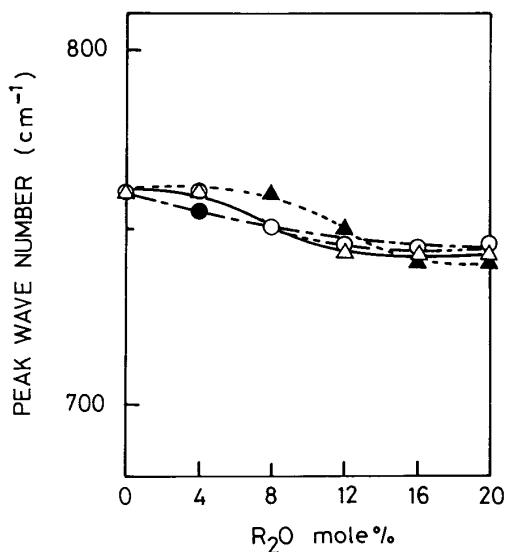


Fig. 9. Variation of the peak wave number of IR spectra of $\text{PbO}-\text{GeO}_2-\text{R}_2\text{O}-\text{NiO}$ glasses. R is K or Na .

●: $\text{PbO}\cdot1.6\text{GeO}_2+\text{Na}_2\text{O}$, ▲: $\text{PbO}\cdot1.6\text{GeO}_2+\text{K}_2\text{O}$
○: $\text{PbO}\cdot2\text{GeO}_2+\text{Na}_2\text{O}$, △: $\text{PbO}\cdot2\text{GeO}_2+\text{K}_2\text{O}$

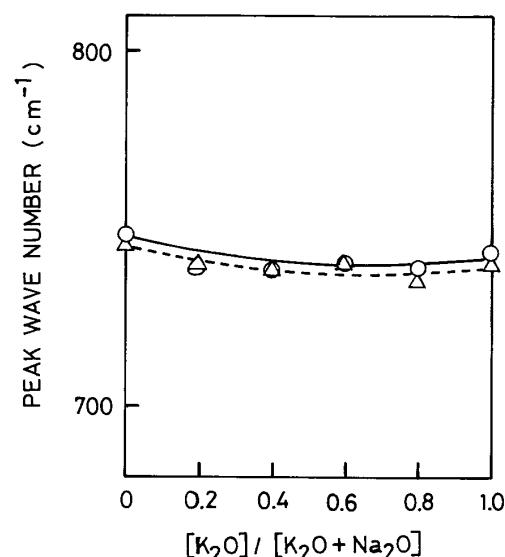


Fig. 10. Variation of the peak wave number of IR spectra of $\text{PbO}-\text{GeO}_2-\text{K}_2\text{O}-\text{Na}_2\text{O}-\text{NiO}$ glasses.
△: $\text{PbO}\cdot1.6\text{GeO}_2$, ○: $\text{PbO}\cdot2\text{GeO}_2$

混合アルカリガラスでは、混合したアルカリの比が変化すると、ピーク波数はわずかな変化が認められた(図10)。以上の結果から、 $\text{PbO}-\text{GeO}_2$ 系におけるアルカリ金属添加はGeの配位数の変化にあまり影響を与えないものと思われる。

3.3 屈折率

屈折率は一般に次の Gladstone-Dale の式で表され、構成原子の分極状態、ガラス構造と密接な関係を持っている。

$$n-1 = R/V$$

ここで、 n は屈折率、 R は分子屈折、 V は分子容である。この式より、分子屈折が大きくなるか分子容が小さくなれば屈折率が高くなることが分る。音在¹²⁾によると、酸化物ガラスではその分子屈折に対して最も寄与の大きいものは O^{2-} であり、隣接イオンの影響を最も大きく受けるのも O^{2-} である。そして O^{2-} に対する隣接陽イオンの効果は O^{2-} の周囲に作られる電場の非対称性が大きいほど大きくなるので、非架橋酸素のイオン屈折の方が架橋酸素よりも大きく、修飾イオンの多いガラスの方がガラスの分子屈折は大きいこと、また修飾イオンの半径が増すと、それ自身のイオン屈折の増加と O^{2-} 周囲の電場の非対称性の増加によって、ガラスの分子屈折は増加することを報告している。

図11に単一アルカリガラスの、図12に混合アルカリガラス系のアルカリ含量変化に伴う屈折率とその変化を示した。

上記の説明から、本系ガラスでもアルカリ含量が増加するのに伴い分子屈折は増加するはずであるが、本系ガラスでは図11に示すように単一アルカリの場合には屈折率の低下がみられた(Na_2O 20 mol% で約 0.05, K_2O 20 mol% で約 0.10)。これはアルカリによる架橋酸素の

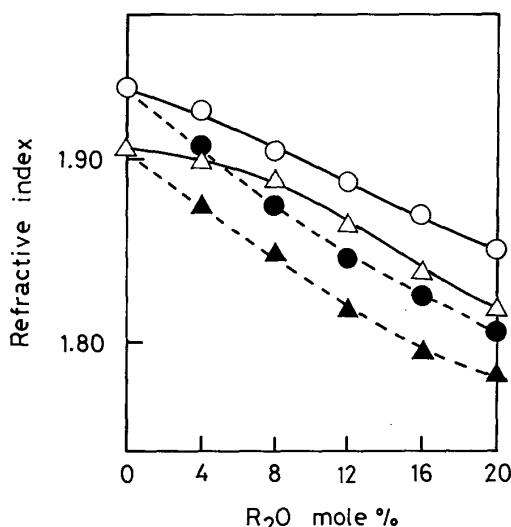


Fig. 11. Variation of the refractive index of $\text{PbO}-\text{GeO}_2-\text{R}_2\text{O}$ glasses containing NiO . R is K or Na .
○: $\text{PbO}\cdot1.6\text{GeO}_2+\text{Na}_2\text{O}$, ●: $\text{PbO}\cdot1.6\text{GeO}_2+\text{K}_2\text{O}$,
△: $\text{PbO}\cdot2\text{GeO}_2+\text{Na}_2\text{O}$, ▲: $\text{PbO}\cdot2\text{GeO}_2+\text{K}_2\text{O}$

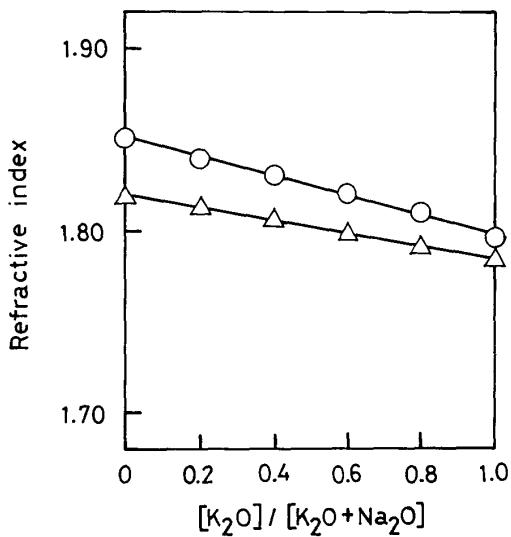


Fig. 12. Variation of the refractive index of $\text{PbO}-\text{GeO}_2-\text{K}_2\text{O}-\text{Na}_2\text{O}$ glasses containing NiO .
○: $\text{PbO}\cdot1.6 \text{GeO}_2$, △: $\text{PbO}\cdot2 \text{GeO}_2$

切断により分子容が増大し、これが分子屈折の増大を上回ったことによるものと思われる。また、加成性からのはずれは Na の方が大きく、屈折率の低下は K が Na よりも著しい。これは K^+ の方が Na^+ よりもイオン半径 (K^+ : 1.38 Å, Na^+ : 1.02 Å) が大きいため、ガラス網目構造の破壊の度合いが大きく、分子容を増す効果が大きいためと考えられる。このことから混合アルカリガラスの場合 (図 12) の $[\text{K}_2\text{O}]/[\text{K}_2\text{O}+\text{Na}_2\text{O}]$ 比の増加による屈折率の低下 ($[\text{K}_2\text{O}]/[\text{K}_2\text{O}+\text{Na}_2\text{O}] = 1.0$ で約 0.05) も同様に説明できる。混合アルカリガラスの場合、加成性からのはずれはみられず、混合アルカリ効果はあまりはつきりと現れないものと考えられる。

4. 考 察

以上の結果を用いて $\text{PbO}-\text{GeO}_2-\text{R}_2\text{O}$ ($\text{R}=\text{K}$ or Na), $\text{PbO}-\text{GeO}_2-\text{K}_2\text{O}-\text{Na}_2\text{O}$ 系ガラスの構造を以下に考察する。

4.1 10D_a パラメーター

配位子場の強さを示す $10D_a$ は直接光吸収スペクトルの ν_1 として求めるか、 ν_2 と ν_3 を用いて計算できるが、この場合 ν_2 の値が正確に ${}^3\text{A}_{2g}(\text{F}) \rightarrow {}^3\text{T}_{1g}(\text{F})$ の準位間のエネルギーを表さないとされている¹⁰⁾ので、以下では $10D_a$ を考察する場合 $10D_a = \nu_1$ を用いて議論を進めることとする。

単一アルカリガラスの場合、アルカリ含量增加に伴い $10D_a$ は増加し (K_2O 20 mol% で約 2000 cm^{-1})、その割合は K の場合が Na の場合よりも大きい (差は R_2O 16 mol% で約 800 cm^{-1}) ことが認められた (図 3)。この $10D_a$ の増加は、 Ni^{2+} 錯体の共有結合性が増したことを示す。

混合アルカリガラスでは、 ν_1 は ν_2 のショルダー部に重なり、明確に現れないため $10D_a$ の挙動は検討できなかった。

4.2 B パラメーター

B パラメーターは電子間の反発の大きさを表し、その値が Ni^{2+} の自由イオン状態における値 (1030 cm^{-1}) と比べて、その減少の度合が大きいほど共有結合性が大きいことを示唆するものであるとされている。 B の値は以下の式に ν_1 及び ν_3 を代入して求めることができる。

$$B = (\nu_3 - 2\nu_1)(\nu_3 - \nu_1)/3(5\nu_3 - 9\nu_1)$$

単一アルカリガラスの場合、アルカリ含量增加に伴い B パラメーターは減少を示し (K_2O 20 mol% で約 500 cm^{-1} , Na_2O 16 mol% で約 100 cm^{-1})、その傾向は K が Na よりも (差は R_2O 16 mol% で約 100 cm^{-1}) 大きい (図 13)。混合アルカリガラスの場合、 ν_1 が明確に現れないため、 B パラメーターの算出ができず検討できなかった。

以上の $10D_a$ の増加、及び B パラメーターの減少より、アルカリ含量增加に伴い Ni^{2+} 錯体の共有結合性が増していくものと考えられる。一方、IR の測定においては、アルカリによる Ge の配位数の変化はあまりみられないでの、 $10D_a$ の急激な増加は Ge の配位数の変化には直接的には結び付かないものと思われる。したがって、Duffy¹¹⁾ の $\text{Na}_2\text{O}-\text{B}_2\text{O}_3$ ガラスに対する考察を参考にして、 $10D_a$ の急激な増加は GeO_6^{8-} イオンができたためであると考えた。また、 ν_1 , ν_3 がアルカリ含量の増加に伴い吸収強度が大きくなることから、マトリックス中の Ni^{2+} は 6 配位が支配的であったものが、アルカリ含量の増加に従い 4 配位のものが支配的となるものと考えられる。これは試料の色が茶褐色 (6 配位) より紫色 (4 配

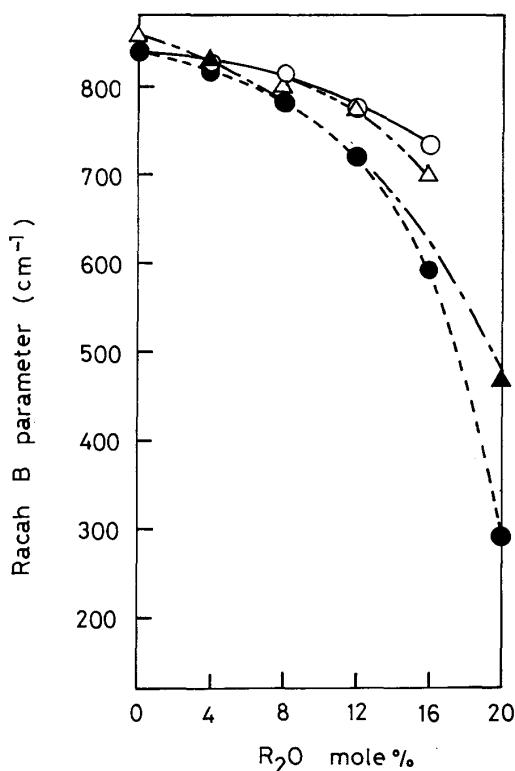


Fig.13. Variation of Racah parameter for Ni²⁺ ions in PbO-GeO₂-R₂O glasses. R is K or Na.

○ : PbO·1.6 GeO₂+Na₂O, ● : PbO·1.6 GeO₂+K₂O,
△ : PbO·2 GeO₂+Na₂O, ▲ : PbO·2 GeO₂+K₂O

位)に移行したこととも対応している。

このNi²⁺の6配位から4配位への移行は、次のように考えられる。すなわちPbO-GeO₂系ガラスにアルカリ金属を加えたことにより塩基性の強い酸素が生成し、それが6配位のNi²⁺の一部を4配位化するためである。また、アルカリ金属がKであるかNaであるかによって4配位Ni²⁺の現れ方が著しく異なり、Kの方がより強いことが認められた。これは塩基性の違いのほかに、ガラス網目内での立体的な配位の大きさ(イオン半径K: 1.38 Å, Na: 1.02 Å)によって影響を受けることによるものと思われる。

5. まとめ

PbO-GeO₂-R₂O-NiO (R = K or Na) 及びPbO-GeO₂-K₂O-Na₂O-NiO系ガラスについて、ガラス中のNi²⁺イオンの光吸収スペクトル、IRスペクトル、屈折率に及ぼすアルカリ金属酸化物の影響を調べた。得られた結果は次のようである。

(1) PbO-GeO₂-R₂O-NiO (R=K or Na) 系ガラスにおいて、6配位Ni²⁺イオンの吸収である ν_1 (配位子場強度を表す)は、アルカリ添加により著しく高波数側へシフトした。これはアルカリ添加によりNi²⁺の配位子場強度が増加することを示す。この原因として、ガラス網目構造がアルカリにより著しく破壊され、GeO₆⁸⁻が生成するためと考えた。また4配位Ni²⁺イオンの吸収と思われる ν_1 , ν_4 の吸収強度が大きくなつたが、これは4配位Ni²⁺が支配的になるためであると考えた。このNi²⁺の6配位より4配位への移行はGeO₆⁸⁻の生成と関係付けられる。

PbO-GeO₂-K₂O-Na₂O-NiO系ガラスでは、配位子場強度を表す ν_1 は ν_2 のショルダー部と重なつておらず、部分的な測定しか行えなかつた。

(2) IRスペクトルの測定からPbO-GeO₂系マトリックスガラスではGeO₆群が大部分を占めており、アルカリ添加によりGeの配位数はほとんど変化しないことが認められた。

(3) PbO-GeO₂-R₂O-NiO (R=K or Na) 系ガラスでは、アルカリ含量増加に伴い屈折率は低下し、R=Naの場合、わずかに加成性によって予想される直線からのずれが認められた。

PbO-GeO₂-K₂O-Na₂O-NiO系ガラスでは[K₂O]/[K₂O+Na₂O]比の増加に伴い屈折率は低下し、混合アルカリ効果は現れない。

文 献

- M. R. Murthy and J. Aguayo, *J. Am. Ceram. Soc.*, **47**, 444-47 (1964).
- M. K. Murthy and J. Ip, *Nature*, **201**, 285-331 (1964).
- M. K. Murthy and E. M. Kilby, *Phys. Chem. Glasses*, **5**, 144-46 (1964).
- 関屋寛治, 森永健治, 柳ヶ瀬勉, 窯協, **88**, 367-73 (1980).
- J. E. Shelby, *J. Appl. Phys.*, **46**, 193-96 (1975).
- K. K. Evstropiev and A. O. Ivanov in "Advances in Glass Technology, Part 2", Edited by F. R. Matson and G. E. Rindone, Plenum Press, New York (1963) p. 78.
- S. Sakka, K. Kamiya and H. Yoshikawa, *J. Non-Cryst. Solids*, **27**, 289-93 (1978).
- A. A. Ahmed, A. F. Abbas and F. A. Moustafa, *Phys. Chem. Glasses*, **24**, 43-46 (1983).
- A. A. Ahmed and A. F. Abbas, *J. Am. Ceram. Soc.*, **66**, 434-39 (1983).
- 作花清夫, 西雪敏紀, 窯協, **88**, 151-58 (1980).
- J. A. Duffy, *Phys. Chem. Glasses*, **16**, 22-26 (1975).
- 音在隆夫, “ガラスハンドブック”, 作花清夫, 境野照雄, 高橋克明編, 朝倉書店 (1975) p. 613.